

# 学修(習)支援の実施状況に関するアンケート

## 概要

**調査期間:** 2018年2月1日～3月31日

**調査対象:** 日本国内の専門学校を除く高等教育機関(国公立および私立大学、短期大学、高等専門学校)

**調査方法:** アンケート調査票(用紙の返送もしくはインターネット回答を選択)

**主催:** 日本リメディアル教育学会学習支援部会

**送付件数:** 1,159件

複数のキャンパスがある大学の場合、主にメインと考えられるキャンパスにアンケート調査票を送付した。ただし独立性が相当高いと考えられたりキャンパス数が極端に多い大学の場合はその限りではない。送付件数は、学生募集を停止して二年以上が経過していたり在学生が最終学年以上のみであると推定される機関、また郵便物が返却されたものなどを除いた総数となる

**有効回答数:** 363件

**学修(習)支援の定義:** 組織として学生の学修(習)をサポートする活動全般を指します(教員等が個人の裁量で行っているサポートは含みません)。ラーニングコモンズのように複数の組織が連携して行っているものは該当します。

## 質問項目

問1 学校名をお書きください (SA)

問2 学修(習)支援を実施していますか (SA)

問3 現在、実施していない理由は何ですか (MA)

問4 今後の実施予定についてお答えください (SA)

問5 学修(習)支援を実施している部署や組織名をお書きください

問6 学修(習)支援を実施している目的はどれですか (MA)

問7 学修(習)支援の内容はどれですか (MA)

問8 学修(習)支援の実施場所はどこですか (MA)

問9 学修(習)支援の実施形態はどれですか (MA)

問10 学修(習)支援の対象は誰ですか (MA)

問11 学修(習)支援の対象の人数はどれですか (SA)

問12 学修(習)支援の運営時間内ののべ利用者数は、平均した場合どれですか (SA)

問13 学修(習)支援の管理・運営スタッフの構成はどれですか (MA)

問14 学生への学修(習)指導に直接関わるスタッフの構成はどれですか (MA)

問15 学生への直接的な学修(習)指導に関わるスタッフの人数はどれですか (MA)

問16 学修(習)支援スタッフへの研修を実施していますか (SA)

問17 実施していない理由は何ですか (MA)

問18 教職員(非常勤含む)を対象に研修を行っている場合、研修の時間はどれですか (MA)

問19 学生を対象に研修を行っている場合、研修の時間はどれですか (MA)

問20 学修(習)支援について、外部評価(当該組織以外からの評価)を実施していますか (SA)

問21 どのようなかたちで実施していますか

問22 上記でお答えいただいた以外にも、学修(習)支援を行っている部署や組織はありますか。

問23 学修(習)支援に関する困難な点や解消すべき課題などがありましたら自由にお書きください

問24 学修(習)支援に関するご意見やお考えを自由にお書きください

\*SAは単一回答、MAは複数回答を示す。

## 集計結果(表)

\*問5・問21~問24は自由回答のため表は作成していない。

問2. 学修(習)支援を実施していますか(SA)	
a. 実施していない	56
b. 実施している	307
総数	363

※部署や組織ごとのMA含む ※大学名が無記名のデータは含まない

問4. 今後の実施予定についてお答えください(SA)	
a. 今年度中に実施予定	0
b. 来年度以降に実施予定	3
c. 時期は未定だが実施予定	9
d. 実施予定はない	25
e. わからない	14
f. その他	1
無回答	4
総数	56

問7. 学修(習)支援の内容はどれですか(MA)	
a. 学修(習)全般	159
b. ライティング	74
c. 理数系科目	97
d. 外国語	89
e. 初年次教育	118
f-1. 進路(就職対策)	137
f-2. 進路(その他)	72
g. 資格取得	111
h. 特定の学部・学科・科目	32
i. わからない	0
j. その他	36
総数	307

問9. 学修(習)支援の実施形態はどれですか(MA)	
a. 予約制	114
b. 運営時間内に学生が自由に利用	187
c. 特定の時間帯を設けて開催(講義形式等)	185
d. 特定の時間帯を設けず必要に応じて開催	69
e. わからない	1
f. その他	7
総数	307

問3. 現在、実施していない理由は何ですか(MA)	
a. 実施する必要がある	3
b. 人材面で困難がある	28
c. 予算面で困難がある	24
d. わからない	12
e. その他	9
総数	56

問6. 学修(習)支援を実施している目的はどれですか(MA)	
a. 学力が十分でない学生の支援	208
b-1. 進路支援(就職対策)	146
b-2. 進路支援(その他)	81
c. 資格の習得支援	126
d-1. 学力以外の支援(メンタル面に困難がある学生の支援)	99
d-2. 学力以外の支援(メンタル面以外に困難がある学生の)	76
e. 留学生など日本語に困難がある学生の支援	67
f. 学習意欲の高い学生の支援(a~eにあてはまらない)	98
g. わからない	0
h. その他	21
総数	307

問8. 学修(習)支援の実施場所はどこですか(MA)	
a. 学修(習)支援専用のスペース	158
b. 他部署等との共用スペース(ラーニングcommons含む)	77
c. 状況に応じてその都度場所を確保(教室・個人研究室含)	184
d. ICTを利用(オンラインでの支援であり特定の場ではない)	33
e. わからない	1
f. その他	8
総数	307

問10. 学修(習)支援の対象は誰ですか(MA)	
a. 全学生(大学院生・非正規学生を含む)	139
b. 学部生	112
c. 大学院生	22
d. 初年次生	54
e. 特定の学年	17
f. 特定の学部・学科・科目のみ	18
g. 特定の学生	36
h. 留学生	39
i. 非正規学生(研究生・特別聴講学生等)	5
j. わからない	0
k. その他	10
総数	307

問11. 学修（習）支援の対象の人数はどれですか（SA）

a. 1～50名	37
b. 51～100名	34
c. 101～500名	60
d. 501～1,001名	44
e. 1,001～1,500名	22
f. 1,501～3,000名	42
g. 3,001～5,000名	24
h. 5,001名以上	36
i. わからない	6
無回答	2
総数	307

問13. 学修（習）支援の管理・運営スタッフの構成はどれですか（MA）

a. 教員（専任）	238
b. 教員（任期付）	66
c. 教員（非常勤）	47
d. 職員	236
e. 学部生	33
f. 大学院生	26
g. 企業等と連携	25
h. g以外の外部スタッフ（地域ボランティア含む）	10
i. わからない	0
j. その他	9
総数	307

問15. 学生への直接的な学修（習）指導に関わるスタッフの人数はどれですか（MA）

a. 0名	1
b. 1名	12
c. 2～9名	171
d. 10～50名	95
e. 51名以上	13
f. わからない	11
g. その他	4
総数	307

問17. 実施していない理由は何ですか（MA）

a. 実施する必要がない	102
b. 人材面で困難がある	30
c. 予算面で困難がある	32
d. わからない	32
e. その他	23
総数	307

問12. 学修（習）支援の運営時間内ののべ利用者数は、平均した場合どれですか（SA）

a. 1日の利用が9名以下	105
b. 1日の利用が10～50名	81
c. 1日の利用が51～100名	15
d. 1日の利用が101～500名	15
e. 1日の利用が501名以上	1
f. 数えていない	33
g. わからない	52
無回答	5
総数	307

問14. 学生への学修（習）指導に直接関わるスタッフの構成はどれですか（MA）

a. 教員（専任）	211
b. 教員（任期付）	65
c. 教員（非常勤）	94
d. 職員	139
e. 学部生	62
f. 大学院生	56
g. 企業等と連携	37
h. g以外の外部スタッフ（地域ボランティア含む）	24
i. わからない	0
j. その他	19
総数	307

問16. 学修（習）支援スタッフへの研修を実施していますか（SA）

a. 実施していない	210
b. 実施している	95
無回答	2
総数	307

問18. 教職員（非常勤含む）を対象に研修を行っている場合、研修の時間はどれですか（MA）

a. 1年に1時間以上、3時間未満	29
b. 1年に3時間以上、6時間未満	19
c. 1年に6時間以上、10時間未満	9
d. 半年に10時間以上	4
e. 実施していない	18
f. わからない	5
g. その他	3
総数	307

問19. 学生を対象に研修を行っている場合、研修の時間は  
どれですか (MA)

a. 1年に1時間以上、3時間未満	25
b. 1年に3時間以上、6時間未満	8
c. 1年に6時間以上、10時間未満	11
d. 半年に10時間以上	6
e. 実施していない	28
f. わからない	2
g. その他	3
総数	307

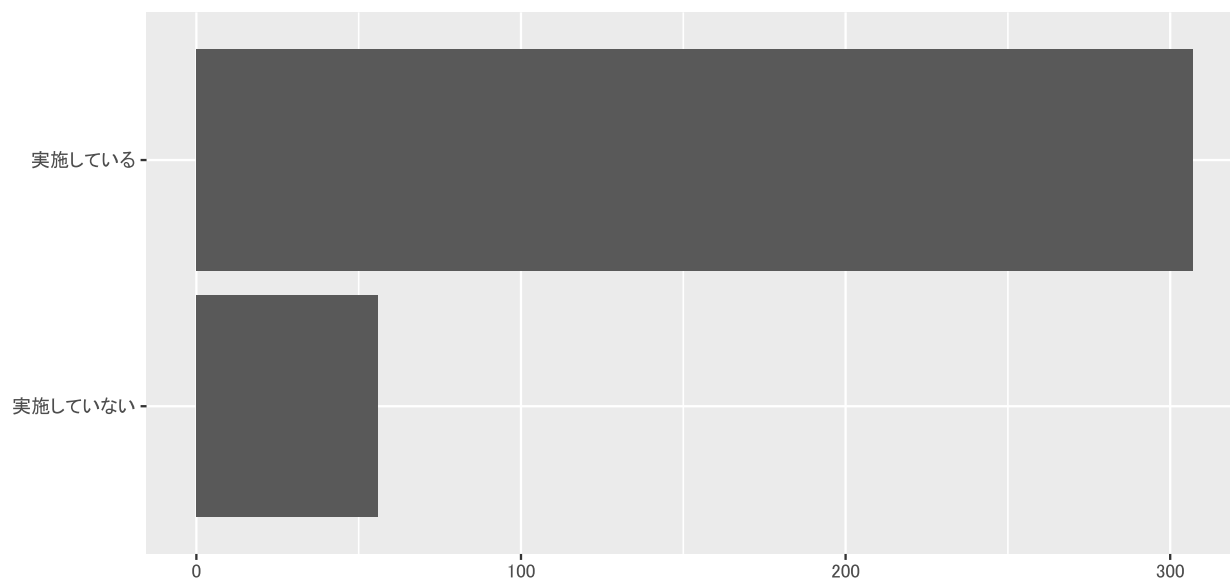
問20. 学修(習)支援について、外部評価を実施していますか (SA)

a. 実施していない	253
b. 実施している	48
無回答	6
総数	307

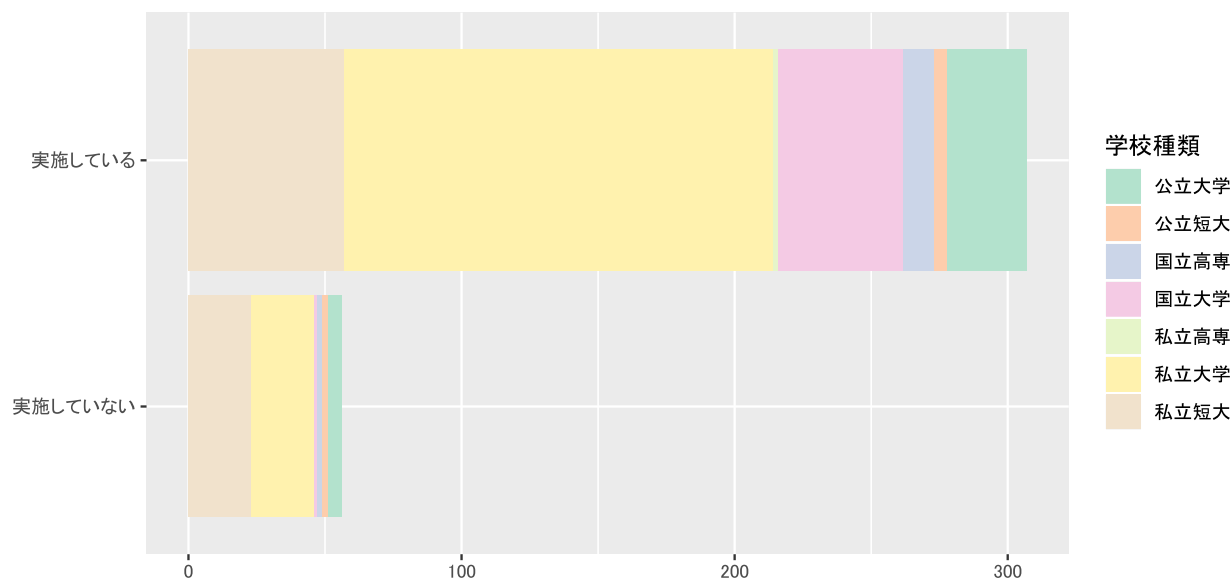
## 集計結果(グラフ)

\*問5・問21~問24は自由回答のためグラフは作成していない。

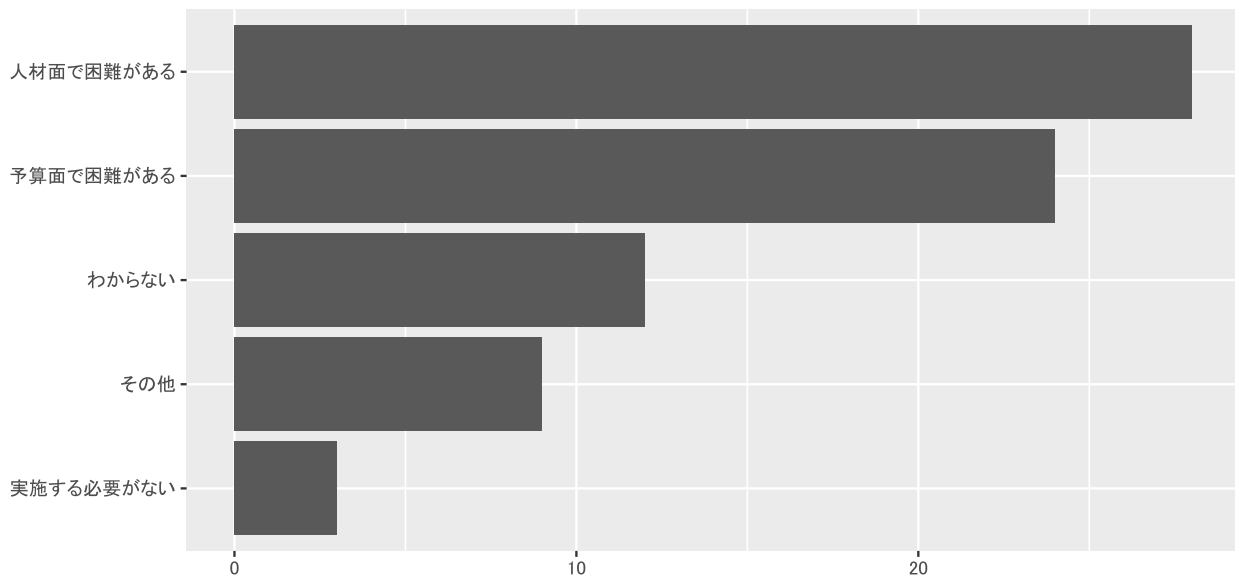
### 問2 学修(習)支援を実施していますか(SA)



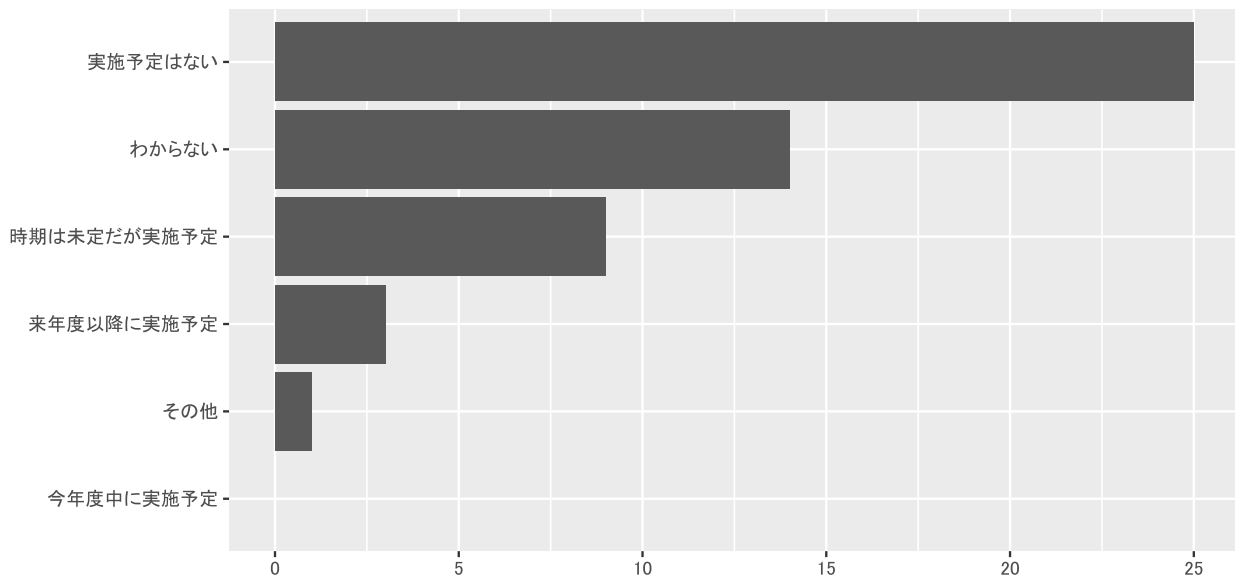
### 問2 学修(習)支援を実施していますか(SA) × 学校種類



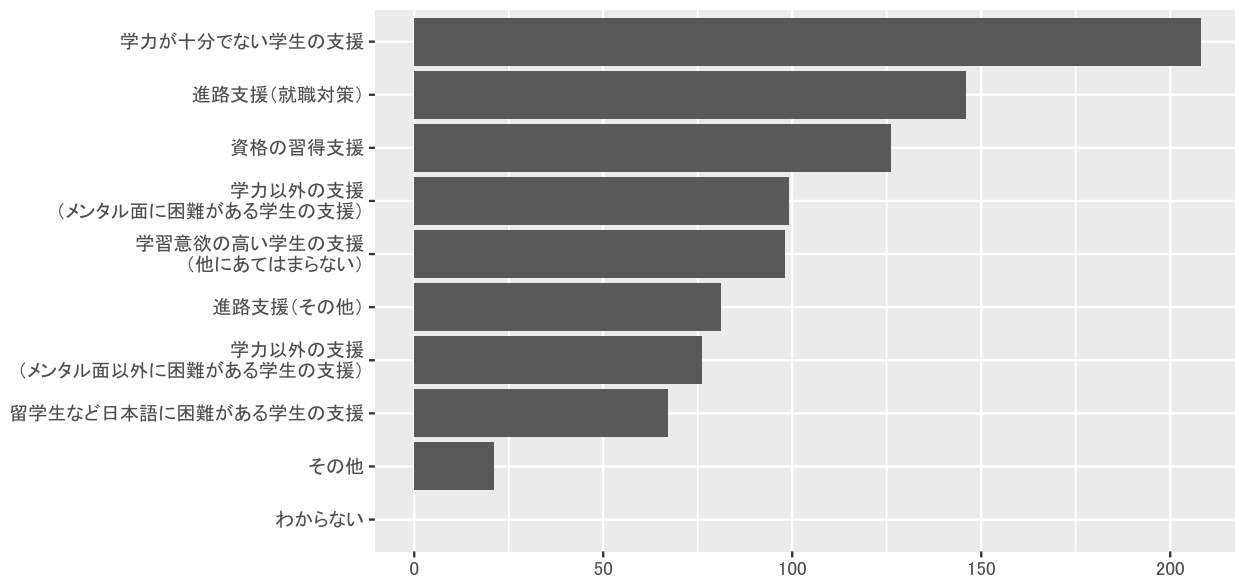
問3 現在、実施していない理由は何ですか(MA)



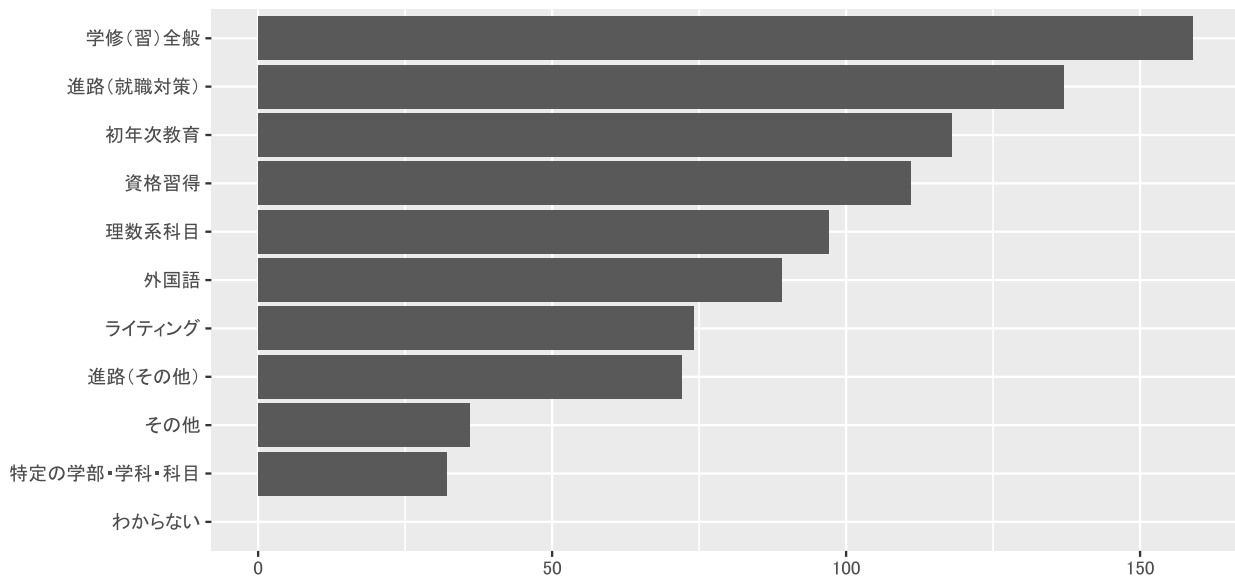
問4 今後の実施予定についてお答えください(SA)



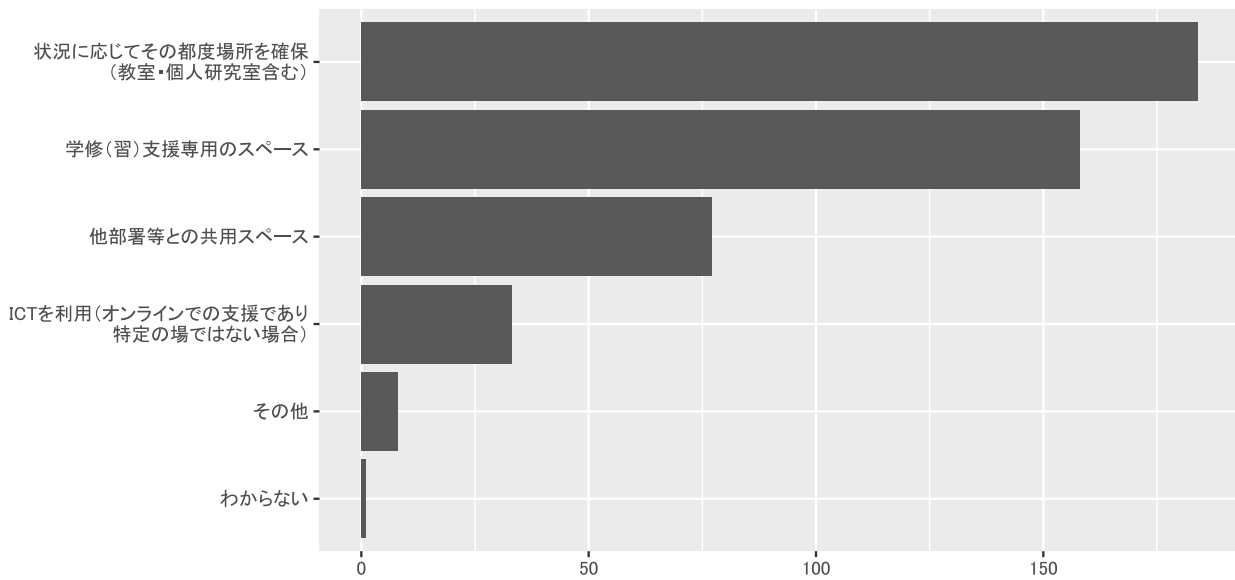
問6 学修(習)支援を実施している目的はどれですか(MA)



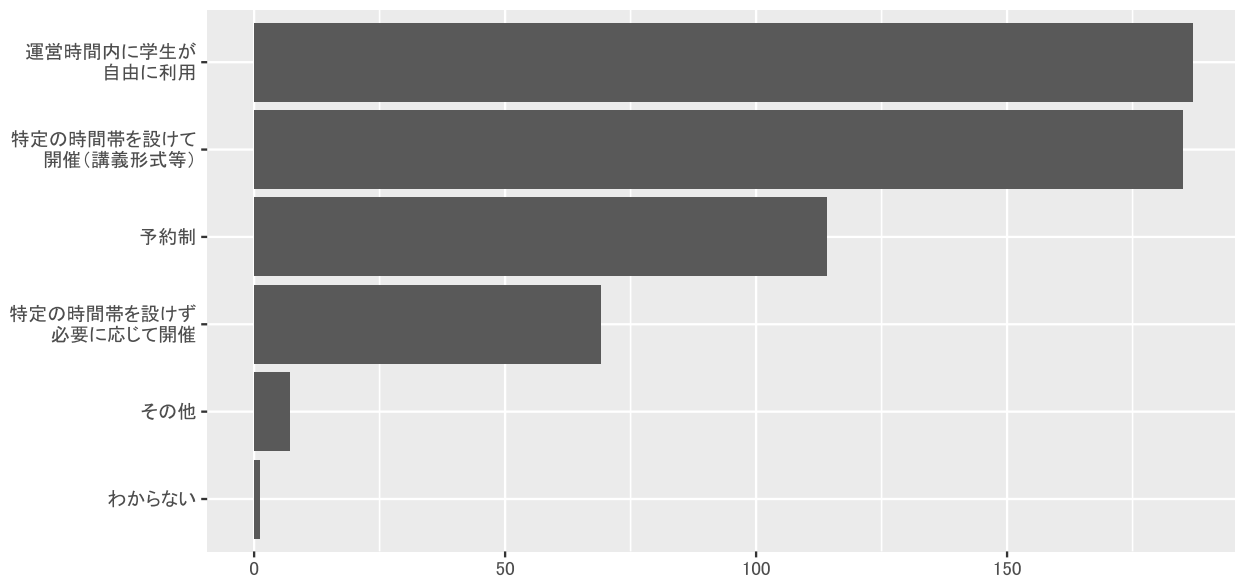
### 問7 学修(習)支援の内容はどれですか(MA)



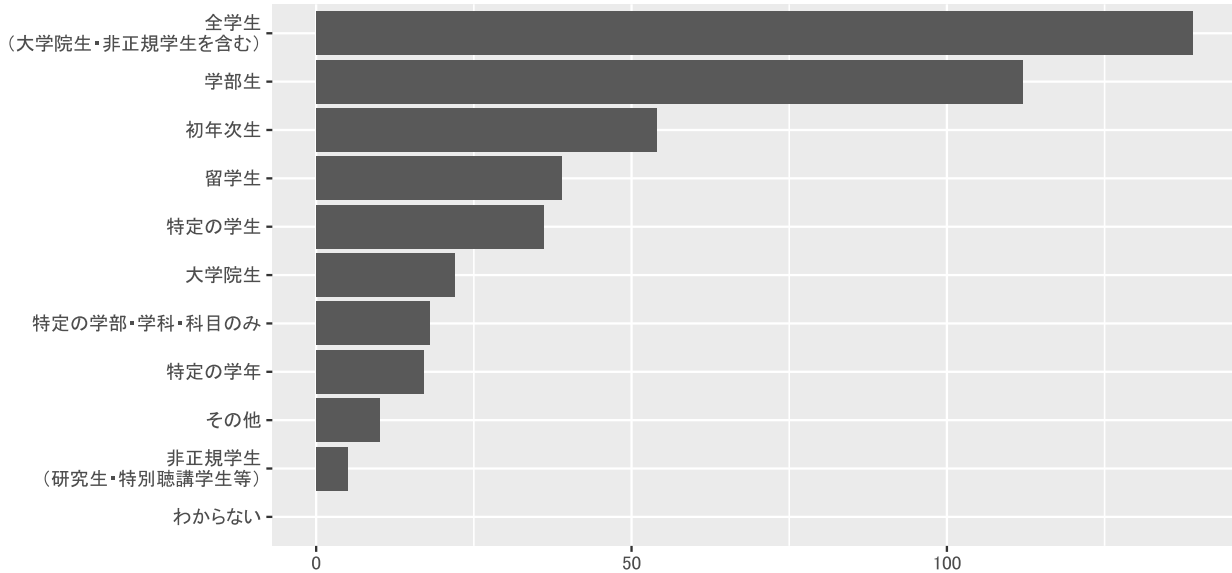
### 問8 学修(習)支援の実施場所はどこですか(MA)



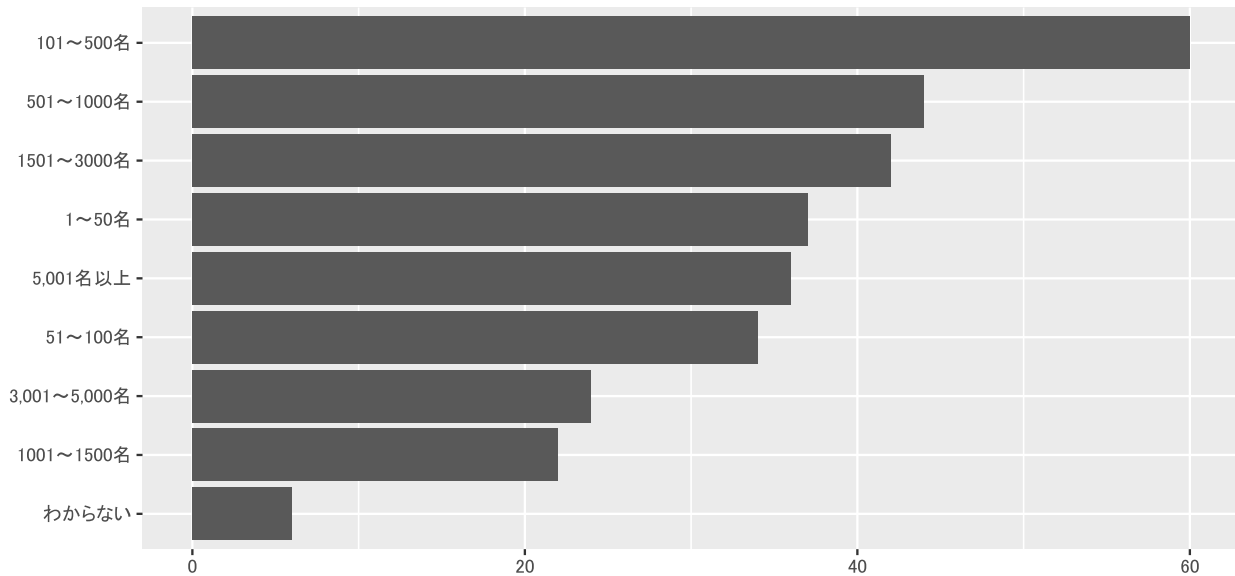
### 問9 学修(習)支援の実施形態はどれですか(MA)



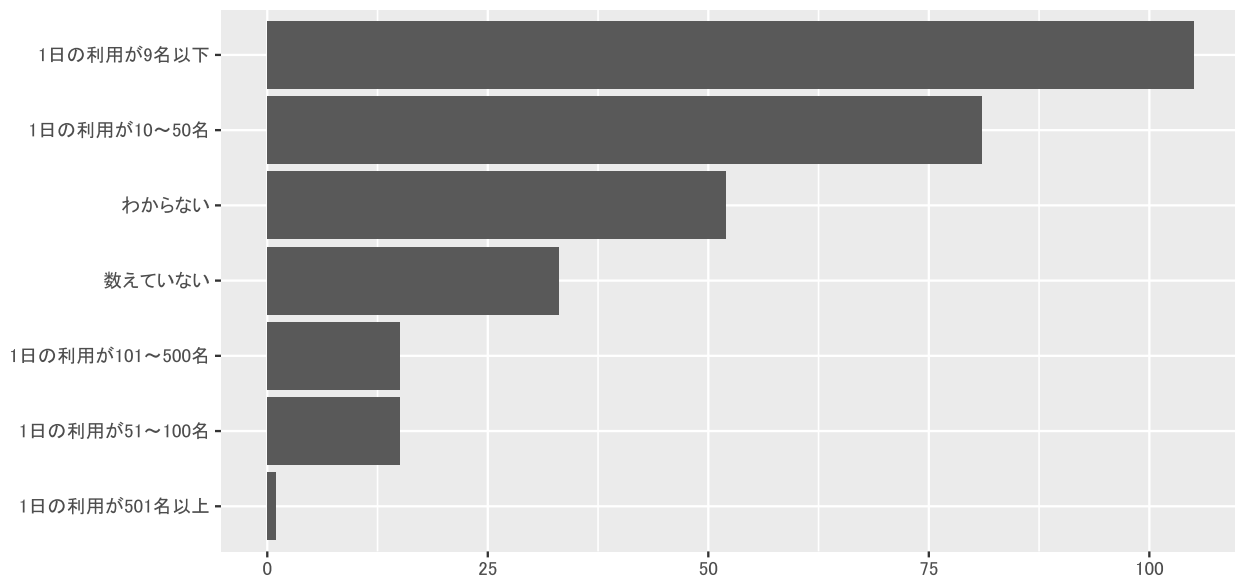
問10 学修(習)支援の対象は誰ですか(MA)



問11 学修(習)支援の対象の人数はどれですか(SA)

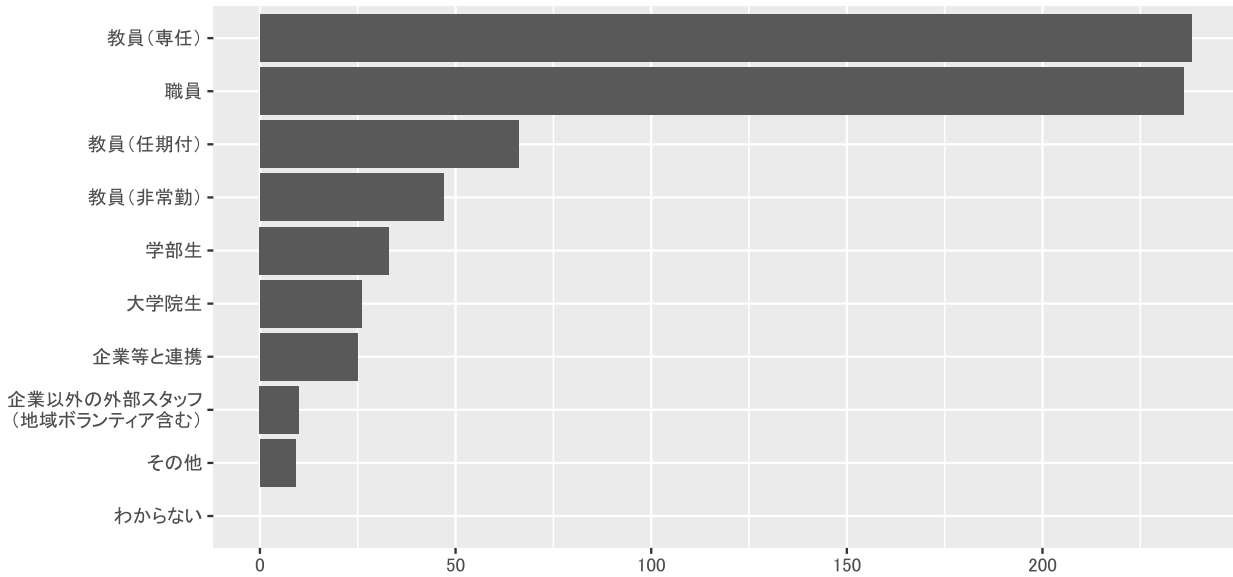


問12 学修(習)支援の運営時間内ののべ利用者数は、平均した場合どれですか(SA)

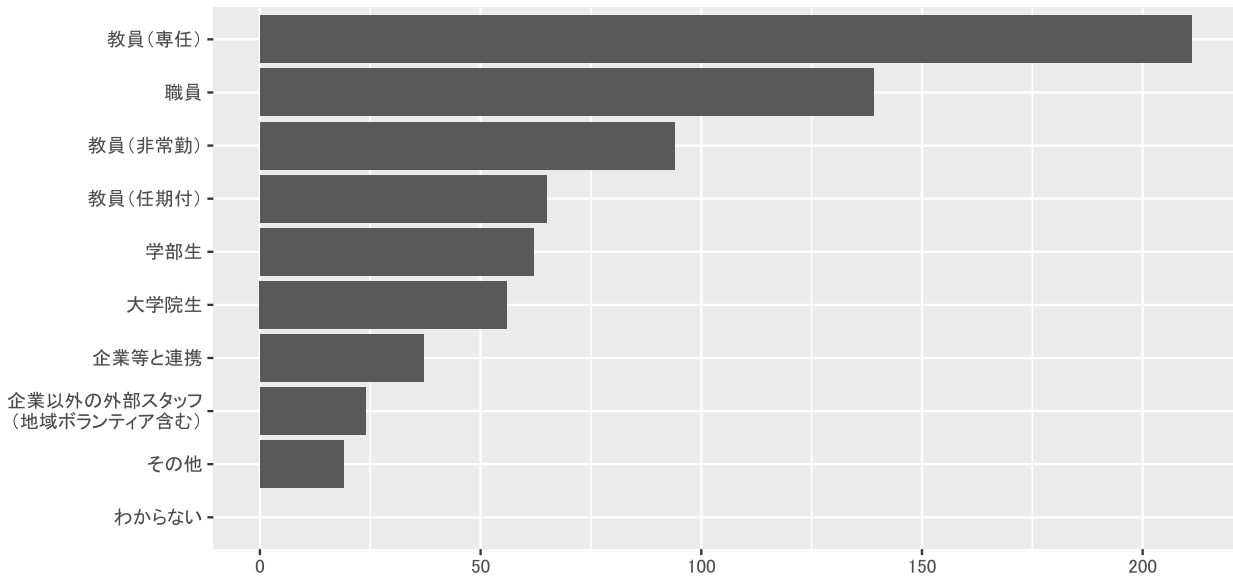




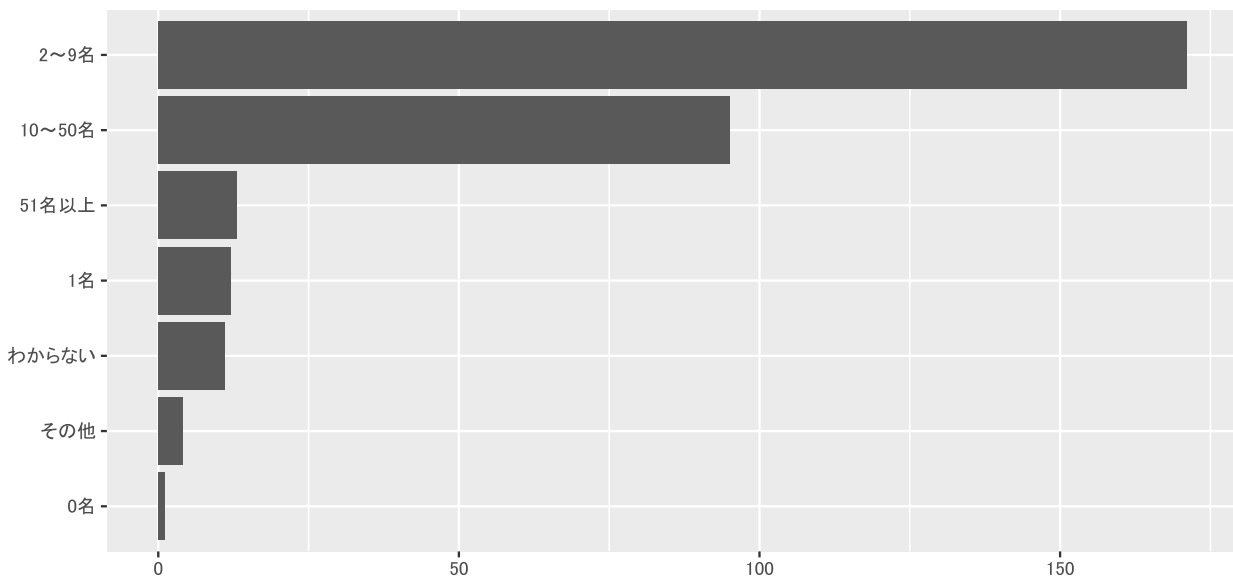
問13 学修(習)支援の管理・運営スタッフの構成はどれですか(MA)



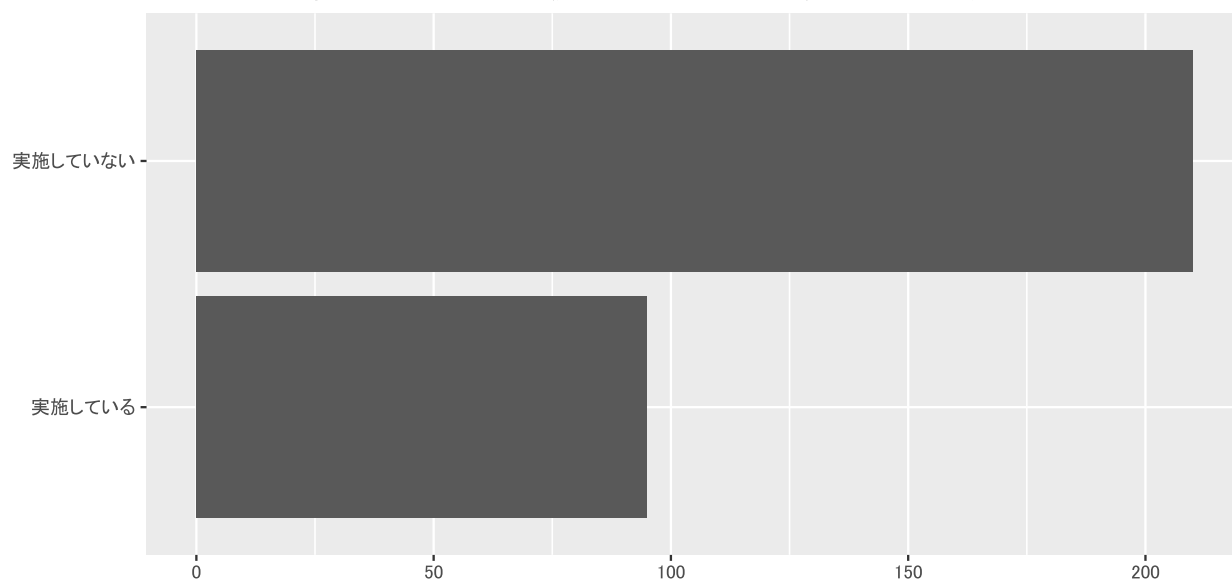
問14 学生への学修(習)指導に直接関わるスタッフの構成はどれですか(MA)



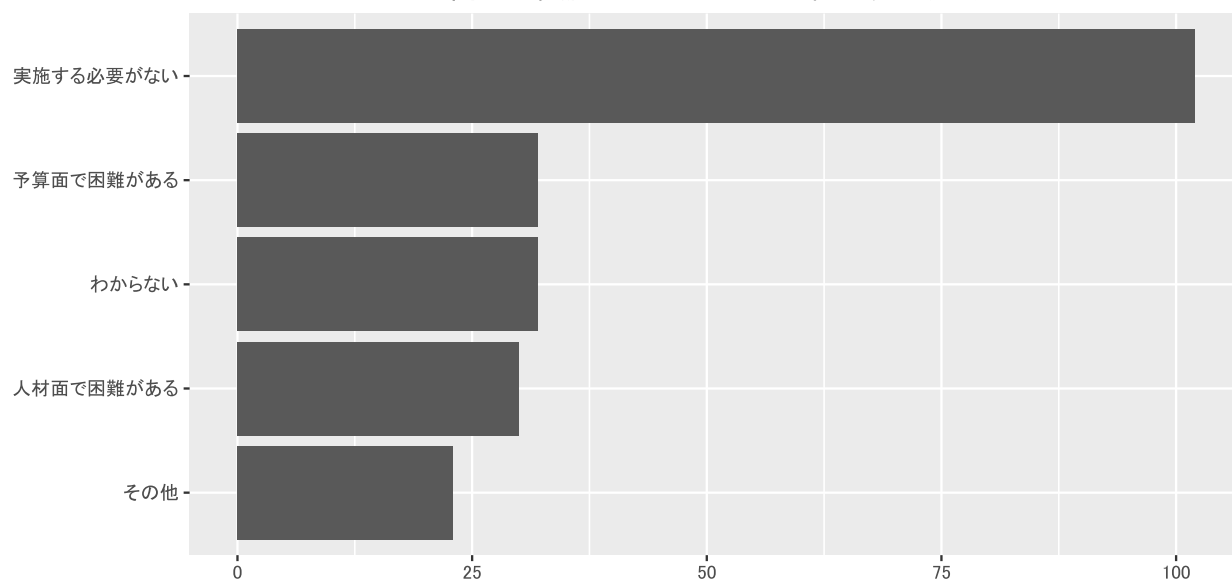
問15 学生への直接的な学修(習)指導に関わるスタッフの人数はどれですか(MA)



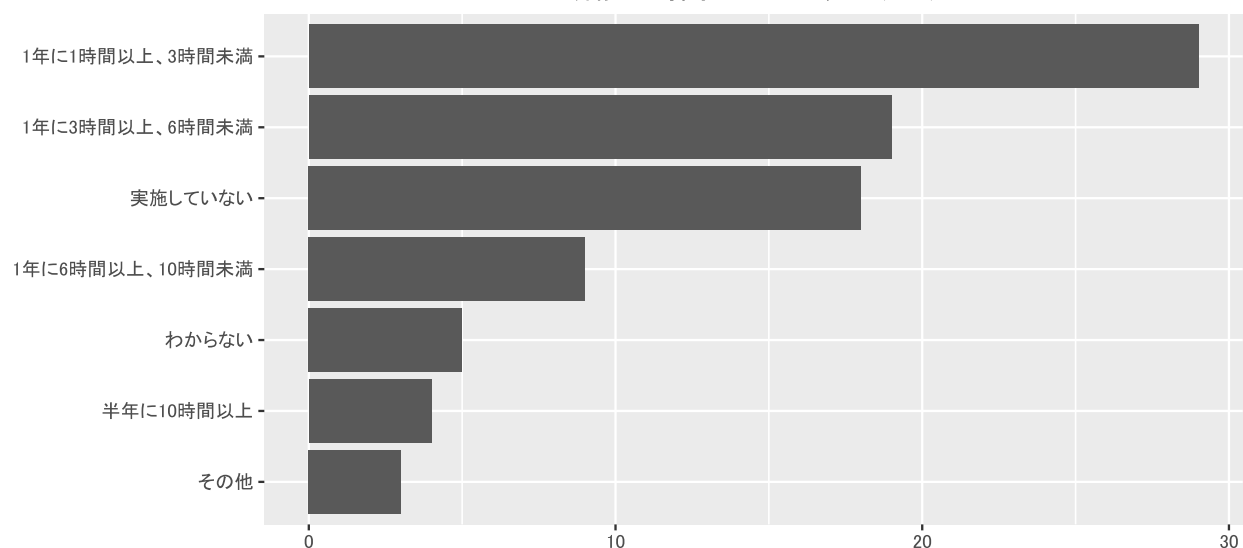
問16 学修(習)支援スタッフへの研修を実施していますか(SA)



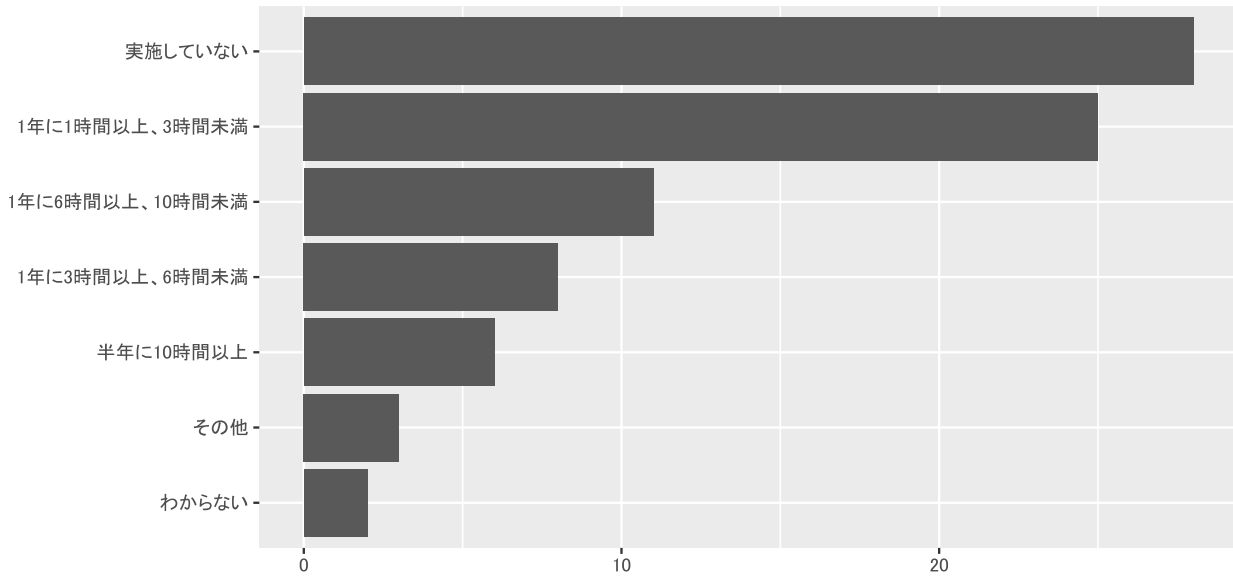
問17 実施していない理由は何ですか(MA)



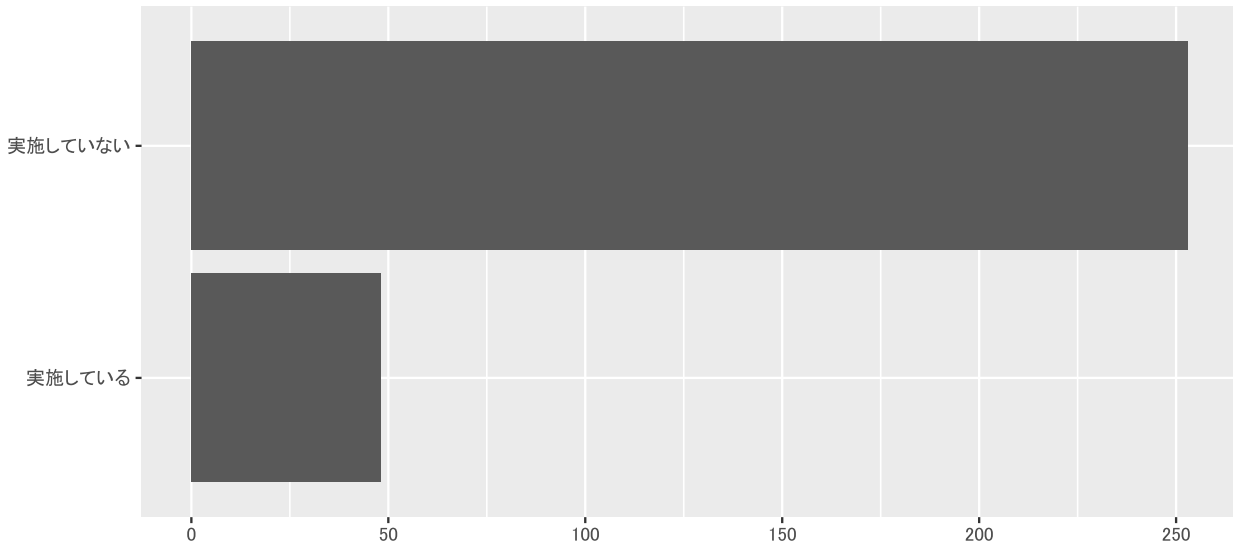
問18 教職員(非常勤含む)を対象に研修を行っている場合、研修の時間はどれですか(MA)



問19 学生を対象に研修を行っている場合、研修の時間はどれですか(MA)



問20 学修(習)支援について、外部評価(当該組織以外からの評価)を実施していますか(SA)



## 集計結果(自由回答)

問 3、問 6、問 7、問 9、問 13、問 14、問 15、問 17、問 18、問 19 の(「その他」の自由記述欄)と問 23、問 24 の結果。

### 問 3 の結果

- 平成 30 年 4 月に学習支援室を設置する。
- 教員が対応しているため
- 学習支援が必要であるという意識がない。
- 現在のところ成績不振者への個別面談で対応しているため
- 教員の協力が得られない
- 担当教員が随時対応しているため
- カリキュラムや時間割の関係で学生のスケジュールを組めない
- 教員が個人の裁量で実施している
- 学生からの実施希望がないため(“合理的配慮”に基づく支援)
- 短大なので時間的余裕がない
- 聞かない。
- 基礎教育センターが実施する日本語力と数的処理のなかで基礎学力の涵養を実現することになっており、専門課程進級後は各学科、ゼミ単位で専攻の特性に応じた教育を行うため。
- 教員が個人で行っているため
- 学生募集を停止しており、上級学年のみのため
- 平成 26 年度入学生を最後に学生の受入を終了しており、現在も学生が 10 人程度と少数のため、各教員がそれぞれの学生へ個別の支援を行っている
- 実施内容について検討中のため

### 問 6 の結果

- 発達しょうがいあるいは発達しょうがい疑われる学生への学習面を中心とした支援
- 上記 e の授業以外に、別途学生の TA による留学生の課題レポート、宿題等の相談や日本語・文法のチェックなどの支援もあります
- 初年次教育の一環として、大学での学修にスムーズに移行できるよう支援
- 修学および履修登録に関する事項について指導・助言
- 新生全員を対象とした、入学前オリエンテーションを実施
- 学習に関する相談に来た学生に対するフォロー・サポート
- 履習の支援(教務委員と研究室担当教員による履修指導)
- ピアノレッスン(技術不足)学力ではなくスキルを支援
- 授業以外での新しい学習機会(イベント等)の提供
- 学修全般の支援(特に限定していない)
- 日本語能力試験 N1 の取得支援
- 入学前教育
- 情報リテラシのスキル向上(全学生・教職員)
- 学修がスムーズに行えるようにパソコンの使い方や大学ポータル機能について説明し学修支援を行っている。
- 留学を目指す学生への語学学習支援
- 卒業論文やレポートの支援
- 障がいのある学生への修学、学生生活の支援、合理的配慮

- 日本語科目履修支援(授業外)
- 入学前学習
- b-1については、進路支援(キャリア形成)がより該当する。
- すべての図書館利用者に対して学修支援を行うため
- 入学前、英語の自習を促すため基礎問題集を送付、読書感想文の提出・添削・返却
- 学生の自主的・自立的に学修する能力を養成すること。
- 教員採用試験英語模擬授業、面接対策のための支援
- 情報機器の操作に関する支援
- 公務員試験対策講座
- 情報機器・ソフトウェア、学内情報システム(LMS、ポータル等)の提供及び利用に関する支援
- 教員志望や航空関係志望の学生へのコーチング
- ピアノレッスン(実習及び就職)
- 学生一人ひとりが、有意義かつ充実した学生生活を送ることができるように、初年次教育カリキュラム、学生の大学生生活支援計画等を検討
- 学習支援を担うピアサポーターの養成
- 学生の質問対応 特に編入学希望者が多いようだ
- 学修の進め方について困っている・迷っている学生
- アクティブラーニング導入
- 様々なレベルの多様な学生のニーズに即した学習支援を行い、Active Learning を促すため
- 履修上の教育支援
- 実際には、進路選択、研究室選択などの相談や、メンタル的な相談もある。
- 入学予定者に課題を課すことで、一定の学力を確保するとともに、学力差を把握する

## 問7の結果

- 国語・英語・数学の基礎学力の向上、SPI 補習、学習相談、個別指導
- 学生生活相談、文献検索
- 入学前オリエンテーション
- 聴覚障害者に対する情報保障(PC ノートテイクなど)
- オフィスアワーの実施、学修ポートフォリオ、研究室制度
- ピアノレッスン
- 国語・数学リメディアル教育
- 日本語学習
- 共通の学習教材作成、学習機会の発信、正課外における学習活動の活性化、「自己学習プログラム」開発・実施の支援
- 公務員試験対策
- 実技を含む専門科目
- 日本語他
- 全学部生に配布しているノートパソコンの使い方、Word、EXCEL などのソフト利用、大学ポータル機能の説明など
- 異文化理解、異文化コミュニケーションに関する事
- 留学生を対象とした日本語科目、日本事情科目の開講
- レポート作成支援、演習科目の課題支援
- 留学生が日本の生活・文化により良く適応するための支援(日本語支援を含む)

- 学生相談及びカウンセリング
- 情報保障（パソコンテイク、手話通訳、字幕起こし、テキスト化、対面朗読など）、履修指導、課題管理、卒論等学修補助
- 日本語
- 障害のある学生の宿題やレポートの書き方等、学修（習）に関わる実務的な支援や情報提供等
- 学生生活における問題、疑問、悩み事等
- カウンセリング
- 修学・進路・生活・適応・健康等について相談を受け、アドバイスを与える。
- 内容は、図書館利用案内、古書資料館利用案内、パソコン・学内 Web サービス利用案内、各種データベース（就職活動や卒業論文・課題作成に役立つデータベース）講習会、少人数制オンデマンドパソコン講習会、レファレンスデスクでの学修支援があります。
- 留学生支援
- ラーニングコモンズを整備、24 時間開放しており、11 時から 18 時の間、職員が常駐している。
- 障がい学生への支援（講義、実習、カウンセリング等）、支援チーム会議（各支援を必要とする学生対象）
- スピーキング（英語）、多読、教員採用試験英語模擬授業、面接対策、留学個別相談
- 留学生チューター
- 情報機器の操作に関する支援
- 情報保障
- 学生必携ノートPCの保守、学内ポータルサイトの利用補助
- 学生必携ノートPCの保守、学内ポータルサイトの利用補助
- カウンセリング
- リーダーシップ育成
- 外国人看護師候補者の日本語支援
- 単位認定に結びつかない特別講義の実施
- カウンセリング、援助サービスの紹介
- メンタル面で悩んでいる学生へのカウンセリング
- マルチメディアを活用した機器操作の講習会
- インターンシップ全般及び職業選択に関する情報提供、講義
- 学生相談(カウンセリング)
- 文献の探し方・事項調査などのレファレンス、教職相談・学生相談（月 2 回）、オフィスアワー（予約制）、PC サポート
- 学生寮における気象支援、発達障がい学生への学習計画の管理、必修のインターンシップにかかる事前事後学習
- 学生相談室を開設して、臨床心理士の資格をもつ専門のカウンセラーが在学中に起こる様々な問題や悩みの相談を受け、よりよい学生生活が送れるようにサポートしている。
- カウンセリング
- 入学前教育

## 問 9 の結果

- e-ラーニングで、随時学生がアクセスして基礎学力問題を回答
- 一部予約制
- 前提科目として設定
- 授業サポート

- イベント形式の活動あり
- 適応面の相談については予約制。
- ①相談(フリー)→②面談(日程調整の上)→③支援内容の決定→④支援開始
- 予約を必要とはしていないが、予約した学生を優先
- 学生サポーターによるイベント的な期間限定や単発での実施
- アドバイザーが個別対応
- 入学前スクリーニング
- オフィスアワーのみ予約制
- 入学前教育のため指定しない

#### 問 13 の結果

- 学科生、チューター
- 教員(兼任)、特定専門職員
- 特に管理・運営スタッフはいない。
- カウンセラー
- 嘱託職員、派遣
- 臨時要員、委託講師
- j→パートタイム職員
- 事務職員が運営に参加している。
- スクールカウンセラー
- 臨床心理士
- センター専任職員ではなく、学部教員の兼務
- 外国人留学生

#### 問 14 の結果

- 業務委託者、パートタイム職員(卒業生)
- 職員アドバイザー(臨時職員)
- 学習相談員として(元高校教諭)
- チューター
- 医師
- アルバイト
- 教員(兼任)、特定専門職員
- 学生が共用スペースを自由に利用している
- 卒業生、神奈川県教育委員会
- カウンセラー
- 学修支援ボランティア(学部生 2~4 年)
- g:パソコン相談は外部委託している
- ハローワーク
- 委託講師
- 学生サポーター
- まれに、教員が直接指導に関わる場合がある
- 学科 5 年生(大学学部 2 年次相当)および専攻科 1 年次生(大学学部 3 年次相当)を講師として雇用している。
- スクールカウンセラー

- 職員（任期付）
- 外部委託（ヘルプデスク）
- 本学大学院修了生
- センター専任職員ではなく、学部教員の兼務
- 専攻科生
- 学習アドバイザー（職員）
- ポスドク研究員
- 学生ボランティア

#### 問 15 の結果

- 支援を受ける学生の希望時間や希望内容によっては担当外の専任教員へ依頼、協力してもらうこともある
- 直接的な学習指導はスタディコンサルタントとし、曜日毎で担当している
- プログラムによって変わる
- 学生サポーターは必要時に募集をかける
- 部署や授業等によって人数が異なる
- 20 名程度
- 専任スタッフは 7 名だが、アウトソーシングを入れるとそれ以上

#### 問 17 の結果

- 学部生は、日本語教員養成課程を履修している学生が TA を担当しており、すでに授業の中で必要とされる能力を見に付けていると判断している。
- FD は行っているが、学修支援という観点での企画がこれまでない。複数の内容のため、それをまとめる形での研修は困難
- 学生への直接的な指導に関わるスタッフについては、いずれも専門的な知識を有しているため研修の必要がないため。
- マニュアルを配布しているため
- 学習支援スタッフとしての研修は未実施だが、教職員は FD や SD 等の研修に個別で参加
- 個人単位で自由に外部研修を行う形式をとるため
- 各担当教員と担当部署が密に連絡を取り合っているため
- 本学の教職員でできないことを外部に委託しているため、研修の必要はない。
- 連携先企業に一任しているため。
- 現在検討中
- 高校を退職した者を採用しており、既にスキルを身に付けているため
- 今後、仕組みを変更する予定があるため、今後実施を検討する
- 各部署の特性に応じて研修をしており、大学全体としては実施していない
- 委員会で決定したことを伝達することで現在はうまく運営できている。
- 専門能力を持っている教員である
- 今のところ研修の必要性を感じない
- 大学経営の中で明確な共通認識が欠如しているため
- 大学院生の日程調整の困難さ、業務範囲の問題
- 対象となる学生のニーズに応じて支援するので、個別に説明を行っているため
- 内部で企画する必要はなく、外部研修を受講できれば良い
- 学生の学力を考慮した対応をしており、特段の必要性はないと考えている。
- 支援内容が多岐に渡るため、講習・研修会の参加を促進している



- 平成 30 年度から学修(習)支援スタッフに対する研修をする機会を検討している。
- 実施については検討中
- 進路等に明るく、また同様の支援等を実施した経験等が豊富なスタッフがいるため。
- 初・中等の学校教員 OB を採用しているため、特に研修は必要ないと考えているため。
- 学期終わりに総括・改善策を話し合うことは行っている。
- 今年度学習支援室を立ち上げたところで、必要な支援等の状況把握をしている段階であるため
- 学修支援センターの運用を優先しているため
- リメディアルの経験がある教員を教室のリーダーにしているため

#### 問 18 の結果

- 学科会議での支援方法の伝達や抄読会での他大学等の支援方法、それに関する先行研究など
- 年間 4~5 日
- ファカルティ・ディベロップメント(FD)
- 派遣研修によるスキルアップ
- 新担当者への業務研修、1ヶ月程度は行っている
- 障害学生支援に関する研修
- キャリアコンサルタント知識講習、キャリア支援者に求められる GBT の理解と対応
- 総合受付を担当するワークスタディ学生を対象とした研修を実施した。
- 法学部アカデミックコンシェルジュを担当している委員会で情報の共有および実施状況の確認を随時行っている。また、大学院生が対応できない学修上の相談内容については、担当教員が対応している。
- 外部研修会などに参加。
- FD 研修、教育コーチング
- 時間を設定しての研修は行っていないが、学修支援スタッフ各自で情報を集め、スタッフ間での情報提供・共有を行っている。また、WEB を活用した意見交換などを行っている。

#### 問 19 の結果

- 担当教員と事前打ち合わせを行ない、質問等への対応、勉強方法のアドバイスをこなう
- 1 年に 1 時間以内
- 下級生に対する教育補助を行った 4 年生学生(SA)に対し、主として倫理面での研修を実施した。(平成 29 年度)
- 毎学期所定の時間帯に科目ごとの担当教員が部屋に待機し来室する学生に個別指導を行っている。それらを合計すれば d に相当する
- 週に 1 度、90 分間の PS 研修を半期 15 回実施
- ピア・チューターに対する障害者支援研修
- チューターのオリエン等
- 「研修」と言うよりは、サポーター(支援する学生)間での情報共有のミーティングを行う。
- 活動説明会・報告会、同担当メンバーの月例会、不定期の講習会、OJT(ピアレビュー、ビデオリフレクション、対応報告等)
- 業務上の基本事項、接遇、機器の備品・システム等利用方法、ライティング・プレゼンテーション実習
- 毎年 3 月に、質問をしに来た学部生への対応方法や指導の心構え、支援スタッフが直面した問題点や課題について共有している。
- 学内・学外の資料を入手するための調査方法(OPAC・データベース検索方法、図書館の各種サービスの申込方法、図書館内の各コーナー・設備の説明)、学内 IT サービスの利用方法
- 大学院生の TA を学修支援スタッフとして活用している。研修については、TA 全員を対象とした TA 研修会とし

て開催している。

- 1年間に12時間
- ピアサポートの定例会議 キャリア講演会

### 問23の結果(抜粋)

- 財源面
  - ◇ 予算の確保
- 連携
  - ◇ 教員や授業との連携
  - ◇ 他部署や教員との連携強化が課題です
- 運営
  - ◇ 臨時職員ですべての学生・科目に対応するには予算的に無理があり、全教職員による全学的な組織体制が必要ですが、その構築・運営に苦慮しています。
  - ◇ 担当部署の人材確保、学修支援の場の確保(そもそも学生が自由に学修できるスペースが全体的に増えると良いと思う)
- スタッフの育成
  - ◇ 学生スタッフの雇用と育成(人員の入れ替わりが早い)
- 来室者
  - ◇ 課題:対象となる学生を来室させ、継続して学習させること。
  - ◇ 学習支援を行いたい学生ほど呼び出しに応じず、対応が困難である。
  - ◇ 学生の意識格差。〇〇センターを利用するのは意識が高く、より基礎学力を高めようという学生が多く、基礎学力をしっかり身につけるべき学生はなかなか利用しない
- 広報
  - ◇ 学生が支援の仕組みを十分活用していない実態があり、今後の工夫について検討課題となっている。
  - ◇ さまざまに学生に周知しているが、なかなか認知度が上がらないこと
  - ◇ 学生への案内、利用率の向上
- メンタル
  - ◇ 心理的問題もかかえた学生への対応について学内の連携
  - ◇ 障害学生への対応(合理的配慮についての教職員の理解啓発、具体的な対応の周知)

### 問24の結果(抜粋)

- 学修(習)支援の位置づけ
  - ◇ きわめて重要であるが、重要なものとしてきちんと位置づけられない
  - ◇ 学修(習)支援を担う人間・部署への理解が低いことをあらためてくれる機関の存在を望みます。
- 大学としての役割
  - ◇ 全入時代(多くの大学)にどこまで支援をするのか(できるのか)、大学の役割が改めて問われている。
  - ◇ これまで以上のICT技術の活用や、学生同士のピア・サポート体制の整備、教職員の意識改革が必要。
  - ◇ このしくみは重要であり、教員個人の対応にまかせるよりはカリキュラム化を含めて全体的な対応が必要と考える。
- ピアサポート
  - ◇ 今後は学生同士のピアサポートの仕組みを検討する必要がある。
- スタッフ・トレーニング
  - ◇ 支援を受ける学生のみならず、支援にあたる側(SA・TA・PD・教員)が成長できるような仕組み作りが大切だと思います。

◇ 学生スタッフを雇用する場合、支援内容の質保証と活動学生に対する修学上の配慮等のバランスを鑑みながら、組織運営や研修・育成にあたる専門スタッフ(教職員)の存在が不可欠である。

● 情報の共有

◇ 他大学様がどのように運営されておられるかご教示いただけましたら幸いです。

● メンタル面

◇ 学力向上の視点だけでなく、学修を支える学生生活やメンタル面(障害への配慮も・・・)について対応していくことも両輪として大切だと思います。関係部署間の連携も必須、障害学生へは学習(修)保障という点でもアプローチを行っています。